

類いまれな
文化と自然を
再認識してほしい

専門は日本近世・近代史。薩摩藩の歴史研究で知られ、大河ドラマ「翔ぶが如く」「琉球の風」「篤姫」の時代考証を担当するなど、志学館大学教授としてだけでなく、メディアでも活躍されている原口泉さん。

2015年に鹿児島県で第30回が開催される『国民文化祭』の実行委員会企画委員長としても忙しい日々を送っている。鹿児島の文化振興だけでなく、新たな道筋の幕開けともなりそうな国文祭。鹿児島の歴史と文化をこよなく愛する原口さんに意気込みを伺った。

第30回国民文化祭鹿児島県実行委員会企画委員会

企画委員長 はら くち いずみ 原口 泉さん
Izumi Haraguchi

「かごしま国文祭」を より楽しむための ポイントはありますか？

現在、43市町村で100を超える事業が行われることが決定しています。それぞれのイベントを、鹿児島県の文化・芸術を育んだ豊かな自然とともに味わってほしいという思いがあります。

南北約600kmにおよぶ鹿児島県の気候や生物、植物は実にバラエティー豊か。ツツジやユリ、ミカンなどの非常に希少な野生種が多いのも特徴のひとつです。さらに今年、奄美群島が国立公園に指定されれば県内に4つもの国立公園があることになり、世界自然遺産やジオパークの火山もあります。全国から訪れる人はもちろん、県民の皆さんにもこの類いまれな自然を再認識してもら



「鹿児島の文化は世界に誇れます」と語る原口さん。

いたいですね。

また、鹿児島は古より海を介してさまざまな交流を行ってきました。特に島々の民俗や食文化には南方のエッセンスが多分に含まれています。

そんな鹿児島県の文化と自然に大きな影響を与えているのが、トカラ列島を西から東に横切り、日本南岸へと流れる黒潮。テーマに掲げた「本物。鹿児島県文化維新は黒潮に乗って」にもあるように、黒潮がもたらしたものにも着目しながら楽しんでください。

県内の伝統芸能で 印象深いものは？

奄美大島をはじめ、離島に伝わる芸能は興味深いですね。異国の香りを感じる奄美の「八月踊り」や悪石島の「ボゼ祭り」。一方で、落ち延びた平家が地元民との交流を深めるために伝えたものと言われている加計呂麻島の「諸鈍シバヤ」もユニークです。

祭りや芸能に欠かせない音楽もやはり南方系。奄美の六調や島唄は分かりやすいと思います。意外かもしませんが、県本土で暮らす皆さんにも馴染み深いはんや節もそうです。よく聞いてみると、盆踊りとの

リズムの違いがわかると思います。

おそらく、琉球や奄美の影響を受けているからだと考えられています。

歴史や文化に興味を 持ちはじめたきっかけは？

私は日本の近世・近代史を軸に、鹿児島県の生物や自然、文化まで幅広く興味を広げています。父親が鹿児島の近世史を研究していたこともあり、幼い頃からそういった本を手にとることができる環境にありましたので歴史好きになったのは必然でした。

鹿児島大学の講師になり、薩摩藩の研究を始めてからはさらに没頭。大河ドラマの時代考証をしたり、歴史番組に携わったり。そんな歴史に付き物なのが文化や芸能。知れば知るほど面白く奥深くて、飽くなき探求はまだまだ続きそうです。

生まれた時から本に囲まれて育ちましたが、特に鹿児島県立図書館は知の宝庫です。鹿児島県の魅力ある文化を、国内外に発信することも館長の務めです。

これからの鹿児島に 期待することは？

私は「文化は鹿児島の基幹産業」だと思っています。文化は観光や交流を生み、暮らしを楽しく豊かにするもの。ほかにはない多種多様な文化を持つ鹿児島だからこそ、今回の国文祭はアピールする絶好のチャンスだと思っています。

2015年は国文祭だけでなく、集成館事業などの世界文化遺産登録の可否も決まります。また、2016年には奄美群島の世界自然遺産登録を目指しており、さらに2018年には明治維新150周年も迎えます。2015年以降、鹿児島はより注目を浴びることになるでしょう。

辺境の地であった薩摩から明治維新の風を起こしたように、国文祭を機に、在るもの（文化や自然、人づくりなど）をさらに発展させて後世へつなげる新しい提案ができれば、また、そういうチャレンジをする人材を輩出できる鹿児島を創りたいと考えています。



鹿児島中央駅の「若き薩摩の群像」前で学生に講義を行う原口さん。